

世界中の人の心を温かく

岐阜市立藍川北中学校 3年

吉村 優杏(よしむら ゆず)

私は今、SDGs について学んでいます。その学習を通して、世界にはたくさんの課題があり、世界中の全ての人が、自分らしく安心して生きることができているわけではないことを学びました。

SDGs の取り組むべき課題の1つに「貧困をなくそう」という目標があります。まず、貧困とは何か考えました。私は貧困には2種類あると思います。一つ目は物質的な貧困です。世界中には、満足に食事を得ることができていない人や、十分な医療を受けることができていない人々がいます。人間が生活していくために必要な「もの」が足りていないことによって、様々な困難につながっていきます。

二つ目は、心理的貧困です。人間が安心して生活していくために必要な「こころ」が足りていないことによって、戦争や紛争、SNS などによる誹謗中傷など、様々な困難につながっていきます。どちらの貧困におちいったとしても、少しでも明るい気持ちになり、自分の夢に向かって充実した人生を送る希望をもってほしいと思います。私にとって物質的な貧困を解消することは、難しいことです。なぜなら、「もの」や「資金」などの物質的な手助けは、私一人の力だけでは解決できないことが多いからです。しかし、心理的貧困の改善の一步は、私にもできるのではないかと思います。私にできることは何か。それは、世界中で大切にされている挨拶を積極的にしていくことです。挨拶を大切にしたいと思ったきっかけは、私の家族です。

みなさんは、朝起きた時、家族や兄弟にちゃんと「おはよう」と挨拶をしていますか。また、寝る時には「おやすみ」と声をかけていますか。私の家族でもそれが普通のことでした。でも、小学校4年生のある日、私はこう思ったのです。「家族とはいつも一緒にいるのだから、わざわざ挨拶なんてしなくてもいいんじゃないか。」だから、寝る時に「おやすみ」を言いませんでした。「おやすみ」を言わなかったその日は、なかなか寝つけませんでした。何だかもやもやして落ち着きません。「何で言わなかったんだろう。」と後悔しました。家族とコミュニケーションをとり、家族を大切にすることを自分が投げ捨ててしまったように感じました。その日から挨拶は人と人との心を温かくするものであり、優しさを育むものであると感じました。毎朝、父は、私に「おはよう」と挨拶をしてくれます。その挨拶がとてもうれしく、心が温まります。挨拶を交わすことによって、自分の存在が認められ、大切に思われていると感ずることができそうです。雰囲気も和み、明るく一日をスタートさせ、笑顔があふれる空間を生み出すことができます。こんな気持ちも家族だけでなく、もっと多くの人に味わってほしいと思いました。

私は昨年、生徒会副会長経験しました。その時は、学年の垣根を超えた交流がしたいと思っていました。一人でも多くの人と挨拶をし、一人でも多くの人を笑顔にしたいという願いを持ってやっていました。しかし、コロナ予防の中、近くで挨拶をすることが難しい状況でした。だから、離れた距離でも心がつながれるように、「あいきた挨拶」を作成しました。㊦明るく、㊩いつでも、㊫気持ちを込めて、㊭互いを見て、という合言葉にして挨拶をしました。一人で始めた活動でも、クラスの友達や先輩、後輩など、学校全体に広まり笑顔の輪が広がっていききました。私は、改めて挨拶は人を笑顔にし、元気を与えてくれるものだと感じました。中学校だけでなく、小学校、そして地域へと挨拶を広げ、「藍川大家族」として挨拶を広げていきたいと思いました。

世界にはたくさんの挨拶のやり方があります。日本では挨拶をする時にお辞儀をするのが一般的です。しかし、欧米では握手やハグ、タイでは合掌してお辞儀をして挨拶をしているそうです。それぞれの国で挨拶の方法は異なりますが、どの国でも相手を尊重して行っています。大切なのは「形」ではなく、相手に対する「優しさ、思いやり」ではないでしょうか。世界中の「誰とでも」挨拶を通して人の心を温かくしていきたいです。